

【地域医療を考えるためのポイント】

- ・**高齢者人口が増加**する（特に75歳以上の後期高齢者）が増加。
- ・今後も増えてくる病気は、脳梗塞、心不全、骨折、肺炎また、認知症など、**治療して終わりではなく、継続した医療**が必要。
- ・病気と付き合いながらの生活の中で必要になるリハビリや重症化予防などに対応できる**回復期を中心とした医療提供体制**（回復期～慢性期～在宅医療）が必要。

- ・今後、**人口は減少**していく。そのため、入院患者数も減少する。
- ・**医師の働き方改革**により、医師の勤務時間の上限規制が開始。
- ・就業者が減少するなか、医療・福祉職種の**人材確保**が必要。
- ・医療、介護、住まい、生活支援、介護予防など包括的に支援する、逗子市の**地域包括ケアシステム**を充実させていくことが重要。

・**病院の機能分化とアライアンス（連携）**  
1 病院完結型から地域完結型へ

・**神奈川県地域医療構想**  
病床の機能分化・連携を進めるために、医療機能ごとに医療需要と病床の必要量を推計し定める。

・**基準病床数について**  
病床の割り当ては横須賀・三浦地区二次医療圏（逗子市・横須賀市・三浦市・葉山町）で定められた基準病床数の範囲で、各医療機関からの要望に応じ神奈川県が適正配置を行う。

【今までの意見交換のまとめ】

**医療に期待すること**

- ・何かあったときに、まず誰かが診てくれると安心。
- ・普段診てくれている人とか、訪問看護師さんとかが、まず診てくれて、そこでまず不安を抑えてくれてから、しかるべきところに行かれるという役割分担。そのような病院、あるいは医療センターのようなものがないのではないか。
- ・専門性の高い医師にかかりたいという患者の気持ちは、詳しい医師の意見を聞きたいということ。
- ・かかりつけ医と専門医をオンラインでつなぐ形があると、地元でも専門医の意見をもらいながら治療ができるのではないかな。
- ・また、そういうものをサポートする場所（センターのようなところ）にDXに詳しい人材がいて、そこで患者をサポートして専門医とインターネットでつないで、話が聞けるような仕組みがあれば、医療機関にも負担がかからないのではないかな。
- ・複数の医療機関（診療科）にかかることの頻度が減る、または受診先が減れば、患者・家族も楽になるのではないかな。
- ・小児の人口、移住者を増やすためにも、医療は間違いなく基盤としては必要だろう。
- ・市民にとって病院が遠いことは交通費も負担となるため、通院しやすい距離だと安心である。

**病院の機能**

- ・適切な判断と必要に応じて別の医療機関につなぐ連携の役割。
- ・診療科が複数でも、電子カルテなどで他科の状況を把握し判断し、対応できる。
- ・検査などの結果が速やかにわかる。
- ・地域の病院と連携しているシステムが必要。

**持続可能性**

- ・「大病院」はあった方がいいとは思いますが、それを継続することも考えなければいけない。今の逗子にそれができるだろうか。
- ・病院や施設は必要であるが、個々の経営を考えなければならない。
- ・将来を見据えた医療ニーズも考えていく必要がある。

**考え方の方向性**

- ・国の方針などから考えて、基本的に「総合」とつくような病院はできないことは確かだ、役割分担（急性期や回復期に特化した病院、その後は在宅医療）というような形の流れになってきている。
- ・地域医療の核になる病院としては、慢性期、回復期、あるいは高齢者医療というものを進めていく必要がある。
- ・一つの病院に専門性の高い医師が潤沢にいて、患者がそこに行けば全部見てもらえるというような病院は、これからの日本では望めない。
- ・新しい病院を作るという考え方だけではなく地域のクリニックを集める等、病院の機能を集約できる場所があれば、病院の代わりになるのではないかな。
- ・一つの病院で医療・病気を治すのではなく、地域全体で病気を治して地域で支える医療を行っていくというようなことが今後必要となるのではないかな。

・今後、市内に病院ができる可能性があるとするれば**回復期～慢性期**の病院ではないか？

・今後は、地域全体で治療し、生活を支える**地域で支える医療**について考えていく必要があるのではないかな？

・三浦市立病院は市の基幹的な病院として多くの市民の役に立っているらしい。

【参考：三浦市】

- ・人口 40,123 人
- ・高齢化率 41.6%
- ・市内病院 2
- ・市内診療所 22（産科なし）

【三浦市立病院】

- ・昭和27年開設
- ・病床数136床
- ・診療科目11科目
- ・一次救急の市民の利用率は87.4%

- ・小児救急は横須賀市救急医療センター、休日急患歯科診療は横須賀市口腔センターで対応。
- ・交付金として市が出している金額は192,168,000円（交付金を入れても赤字額は約3,550万円）
- ・医師、看護師は十分足りているとはいえない状況。